栃木県埋蔵文化財センターだより

2007 10月 やまかいどう

発行　平成19年10月30日
栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集　(財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL http://www.maibun.or.jp

いいひと いいこと つぎつぎ "とちぎ"

CONTENTS

○特集：塩
「作る」「運ぶ」「使う」
○埋蔵文化財センター普及事業
★仲内遺跡・川戸釜八幡遺跡の見学＆発掘体験レポート
★埋蔵文化財センター職場体験
○発掘調査レポート
★埋蔵文化財センター
砂田遺跡　森後遺跡　西刑部西原遺跡
青龍渕遺跡・皇宮前塚
★那須烏山市教育委員会　新道平遺跡
★宇都宮市教育委員会　笹塚古墳
★國學院大學栃木短期大学　城内町古墳群　圓通寺古墳
★小山市教育委員会　神鳥谷曲輪跡

発掘調査レポート

① 砂田遺跡（宇都宮市）

砂田遺跡 36 区航空写真 (南上空から)

36 区「夫」と書かれた土器の出土状況

38 区 火災を受けた竪穴住居跡（南から）

砂田遺跡は、北関東道路の宇都宮・上三川：IC 周辺に広がる、「インターパーク宇都宮南」内の北西に位置しています。当遺跡の発掘調査は、平成 8 年度から工事計画の進行に合わせ、地点を分けながら断続的に行っています。

本年度は発掘調査の最終年度で、36 ～ 40 区までの 5 地点の調査が予定されており、これまでに 36・38・39 区の調査を終了しました。その結果、古墳時代後期（約 1400 年前）から平安時代までの竪穴住居跡19 軒、掘立柱建物跡 4 棟、井戸跡 1 基などが発見されています。

36 区より発見された平安時代の住居跡からは、墨で「夫」の文字が書かれた土器が、床に伏せられた状態で出土しています。土をきれいに取り除いたところ、文字は底面と側面の二カ所に書かれていることが分かりました。土器のほかには、砥石、紡錘車及び鉄製品なども出土しています。また、この住居跡の床面を丁寧に調査すると、新たに柱穴や壁溝が見つかり、2回の建て替えが行われたことが判明しました。この地区では 11 軒のうち、6 軒でこのような建て替えが行われています。

38 区では、火災にあった住居跡が発見されました。炭化した材木やその上に葺かれたカヤが放射線状に広がっており、屋根が焼け落ちた状態で埋まった様子がよく分かります。また、炭化した材木やカヤと一緒に真っ赤に焼けた土が見つかっていることから、カヤ葺きの屋根は土で被われていたものと考えられます。

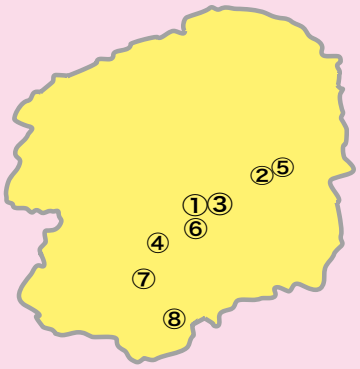
砂田遺跡は、これまでの調査で古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡約 180 軒、掘立柱建物跡 80 棟以上が発見されており、その中で古墳時代後期には集落の規模が最も大きくなります。その後の奈良時代の集落では、竪穴住居跡の数を上回る掘立柱建物が建ち並ぶ景観であったことが分かりました。また、遺跡は砂田町から中島町に広がりますが、その地名を示す「中嶋」や、「大麻（大麻績部）」、「白（白髪部）」など古代の氏姓を略記した墨書土器なども出土しています。

（財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター）

昨年度、栃木県内にて実施された遺跡の発掘調査は80ヶ所を上回りました。今年も皆さんの身近なところで、数多くの発掘調査が実施されていますので、是非、見学されてはいかがでしょうか。

今回の「センターだより」では、このうち８遺跡の成果を掲載いたしました。

① 砂田遺跡（宇都宮市）
② 森後遺跡（さくら市）
③ 西刑部西原遺跡（宇都宮市）
④ 青龍渕遺跡・皇宮前塚（鹿沼市）
⑤ 新道平遺跡（那須烏山市）
⑥ 笹塚古墳（宇都宮市）
⑦ 城内町古墳群　圓通寺古墳（栃木市）
⑧ 神鳥谷曲輪跡（小山市）



② 森後遺跡（さくら市）

森後遺跡は、栃木県農政部による江川南部Ⅰ地区の県営圃場整備事業に先だって、平成17年度から発掘調査を行っています。本年度は、昨年度の継続部分と、栃木県県土整備部による一般国道293号バイパス工事部分の調査を行っています。

遺跡は、一般国道293号を挟んで南北に大きく広がっており、圃場整備事業に伴う国道北側の１～３区（24,120㎡）の調査については、平成17年度に終了いたしました。引き続き、平成18・19年度は国道南側の４・５区（11,400㎡）を、さらに本年度から新設されるバイパス部分の６区（4,300㎡）が加わるため、総調査面積４万㎡にもおよぶ大規模な調査となりました。

遺跡は、旧喜連川市街地から東へ約3.5㎞離れた、さくら市鹿子畑地内に位置しており、喜連川丘陵内を南北に流れる江川東岸の段丘上に広がっています。当遺跡の南端は、さくら市と那須烏山市との境界まで延びますが、この両市の境界のやや南側が奈良時代に整備された東山道（当時の官道）に推定されています。このことを裏付けるように、森後遺跡から東へ約800ｍの地点には、東山道が発見された新道平遺跡があります。さらに、南西方向へ約4.5㎞の地点では、芳賀郡内の役所跡と考えられる長者ヶ平遺跡が発見されています。

本年度の調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡４軒、古墳時代後期から平安時代までの竪穴住居跡48軒、奈良・平安時代の掘立柱建物跡61棟のほか、中・近世の溝・土坑などが多数発見されています。古墳時代前期の竪穴住居跡の一つから、多量の土器と共に管玉・勾玉及びガラス小玉などの装飾品が出土しており、地位の高い人が暮らしていた可能性も考えられます。

特筆すべきは、奈良・平安時代の掘立柱建物が多数作られている点です。中には、当時の一般集落では見ることの出来ない非常に大型な建物が存在し、その幾つかが整然と並んで建てられる一群もあります。さらに、大規模な溝によって区画され、その内部に作られる大型な掘立柱建物も確認することができます。

森後遺跡では、古墳時代前期（約1700年前）の頃に人々の生活が始まり、後期（約1400年前）の頃になるととても大きな集落に拡大します。その後の奈良・平安時代では、通常の集落では発見されることのない大型な掘立柱建物が多数建ち並びます。こうしたことから、河川（江川）と道路（東山道）を利用した施設である可能性があります。

（財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター）

遺跡遠景航空写真（東から）

大型の掘立柱建物跡（北から）

総柱式の掘立柱建物（倉庫）の完掘状況（南から）

③ 西刑部西原遺跡（宇都宮市）

西刑部西原遺跡は、砂田遺跡と同じ「インターパーク宇都宮南」内の北東部に位置しています。平成９年度から断続的に行ってきた発掘調査により、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡や、掘立柱建物跡がたくさん発見されました。西側に近接する砂田遺跡と、ほぼ同じ頃の大規模な集落であることが分かっています。

本年度調査を実施する西刑部西原遺跡13区は、遺跡内の北側部分にあたります。これまでに13区全体の約1/2を調査しましたが、竪穴住居跡15軒、掘立柱建物跡５棟、井戸跡１基、円形周溝遺構５基などが発見されました。

調査区北端で発見された古墳時代後期の第２号住居跡からは、金銅製の耳環（耳飾り）が出土しています。金銅製とは、銅の地金に金箔を張るか、金メッキを施したもので、当時の人達も現代人と同じように金色への思い入れが強かったようです。少し形がゆがんでいますが直径が２㎝ほどで、重さは2.9ｇです。通常、耳環は古墳に埋葬された人への副葬品として、遺体を納めた石室内より見つかるものですが、当遺跡のように竪穴住居跡から出土する例は、珍しいと言えるでしょう。

もう一つ珍しいものに、平安時代に使用された井戸があります。地面を一辺約2.5ｍの四角形に浅く掘り窪め、その中央には水を得るために深さ1.8ｍの筒状の穴を掘り込んでいます。四角形に掘り窪めた壁際には溝が廻り、また中央の穴のまわりが一段盛り上がるなど、同じ時代に利用された井戸の構造とは大きく異なっています。

（財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター）

耳環の出土状況（東から）

出土した耳環（原寸）

平安時代の井戸跡（東から）

④ 青龍渕遺跡・皇宮前塚（鹿沼市）

青龍渕遺跡・皇宮前塚は、鹿沼市と壬生町の境界近くを南に流れる、黒川の西側の高台の上にあります。青龍渕遺跡は、これまで地表に落ちていた土器などから、南北300ｍ、東西250ｍほどの範囲と推定されていましたが、今回の調査によってさらに北側に広がることが分かりました。現在、発掘調査中ですが、約120軒の竪穴住居跡や多数の長方形の土坑、また溝跡などが発見されています。

大部分の竪穴住居跡は、古墳時代後期（約1400年前）から平安時代前期（約1100年前）までのものです。このうち古墳時代後期の人達が生活を開始した頃、遺跡の近くには判官塚古墳という墳丘長61ｍの前方後円墳が造られます。おそらく、この古墳に埋葬された人と、青龍渕遺跡の人達とは密接な関係にあったと思われ、遺跡の人達が古墳を築いたことも想像できるでしょう。

住居跡の調査では、住居の壁に据え付けたカマドの煙突（煙道）が１ｍにも延びるものや、甕を置く部分を切石で補強するものが見られるなど、さまざま工夫が分かってきました。

遺跡は黒川に接するため飲み水を得やすく、また水田となる低地も身近にあります。このような恵まれた条件が、大きな集落に発展した理由と考えられます。

（財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター）

古墳時代の竪穴住居跡（南から）

切石で補強されたカマド（南から）

特集　塩「作る」「運ぶ」「使う」

塩は人間が生きていくために必要不可欠な食品の一つです。
する働きがあります。最近、栃木県内でも塩作りに使われた土器

1．塩を作る

（1）塩を作る

古代の塩はほとんど海水から作りました。1リットルの海水から30ｇの塩を得るためには大変な作業が必要です。

① たくさんの海藻を用意する。

② 海水を海藻に繰り返しかけ、海藻に付着した塩分を利用して濃い塩水を作る。

③ 塩水を煮詰めるための製塩土器を作る。

④ 作成した製塩土器に濃い塩水を入れて、煮詰める準備をする。

⑤ 製塩土器を直火で煮詰め、水分を蒸発させる。

⑥ でき上がった塩の結晶。土器から塩を取り出し精選することもある。

⑦ 石川県寺家遺跡からは、塩を取り出す際に壊した製塩土器が、大量に発見されました。

《写真の提供》
①～④･⑥愛知県小牧市教育委員会
⑤広島県呉市教育委員会
　松浦宜秀氏（元蒲刈町文化財保護委員）
⑦石川県教育委員会

（2）塩を作る場所

奈良時代の初め、茨城県の地誌として作られた『常陸国風土記』には、「塩　焼く」、「塩藻を出す」、「塩を火く藻」と記されており、霞ヶ浦の周辺で海藻を使用した塩作りが行われたことが分かります。

近年では、日立市や北茨城市周辺の海岸沿いの遺跡から、製塩土器がまとまって発見されており、塩作りが盛んに行われたことが明らかになりました。

2．塩を運ぶ

海をもたない栃木県では塩を作ることがで
作られた塩が土器、籠や俵に詰められ、運ば

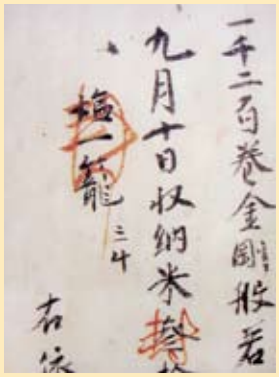
古代の塩は、粉末状にした塩を「升」、「斗」
めて作られた塊を堅塩（片塩）と呼び、一つ
粉末状の塩は籠や俵に入れて、堅塩は紐で
ました。栃木県内出土の製塩土器を調べる

①『平城京木簡』二－長屋王家木簡二－
「返抄　米壱拾伍斛　塩陸籠　腊捌筥　海藻弐拾連」

②『木簡研究』第一八号
「請塩壱斗　為焼皮并宍塗所請如件　五月七日」

また、正倉院に保管されている文書では、「二升
八合」や「三斗」などから、塩が「升」、「斗」及び「合」
の単位で計られたことが分かります。④⑤

③塩を運ぶ牛
塩を詰めた叺を背負って峠を越えるため、登りや下りが得意な牛が利用されました。



④『正倉院古文書影印集成』十四
「塩一籠　三斗」
籠には三斗の塩が詰められました。

摂り過ぎには注意が必要ですが、体の中でいろいろな調整をするミネラルを多く含みます。また、食べ物の味付けばかりでなく、食品を腐りにくく（製塩土器）が遺跡から出土し、古代の塩の流通が少しずつ明らかになってきました。そこで、古代の塩の作り方、運び方、使い方を紹介します。

きません。茨城県の霞ヶ浦や海岸沿いで
れて来たと考えられます。
及び「合」の単位で計りました。また、煮詰
一つを「果（顆）」と数えました。
縛って束ねられ、「連」という単位で運ばれ
と、表面の色の変化や煤の付着から、小山市
八幡根東遺跡の土器は塩作りに
使用され、芳賀町免の内台遺跡
のものは未使用であることが分
かります。

八幡根東遺跡には煮詰められた塩が土器に貼付いたままの堅塩として、免の内台遺跡では粉末状にした塩をこの土器に入れて持ち込まれたと思われます。

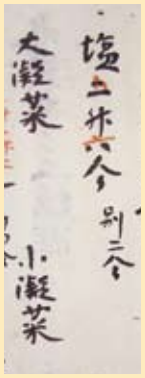
平城京から発見された塩に関係する木簡（木に書かれた文書）を見ると、塩が籠に詰められ六籠運ばれたことや、焼皮や猪の肉に塗るための塩が、一斗請求されたことが記されています。②

⑥ 八幡根東遺跡の製塩土器
（口径 17.6 cm、高さ 7.2cm）

⑦ 免の内台遺跡の製塩土器
（口径 15.4 cm、高さ 6.7cm）

《資料及び写真の提供》
①・② 独立行政法人　奈良文化財研究所
③ 岩手県奥州市牛の博物館
④・⑤ 宮内庁正倉院事務所
⑦ 芳賀町教育委員会

⑤『正倉院古文書影印集成』九
「塩二升八合　別二合」
五
六



二升八合の塩を、一人に二合ずつ支給しましたが、その後に朱書で五升六合に書き換えられました。

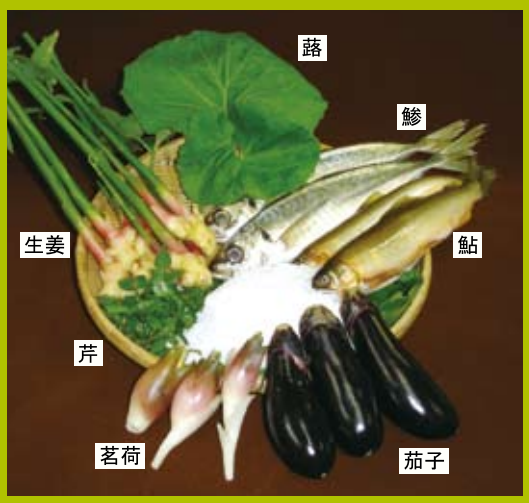
3．塩を使う

（1）塩の使い方

塩は調味料の醤（醤油）や末醤（味噌）の原料になり、野菜や魚肉などの塩漬けに使われました。

漬物では生姜・茗荷・茄子・蓬・蕗・芹・蕨・蕪・瓜及び山椒などが、また肉などにも使用されています。

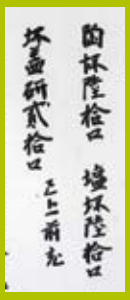
魚は鯖や鰺の塩染め、鮎（年魚）の塩煮と塩漬、鯛の塩塗りなどに使われ、中でも鮎は塩で煮ることが多かったようです。



（2）塩の容器

文献によると、都では食膳にご飯を盛る椀などに加え、塩を入れる「塩坏」が並んでいました。静岡県藤井原遺跡でも「女　塩坏」と書かれた土器が出土していますから、地方でも塩を入れる専用の器があったようです。

③ 藤井原遺跡の土器
底面には「女 塩坏」と書かれています。



②『正倉院古文書影印集成』六
「陶坏陸拾口」「塩坏陸拾口」
須恵器の坏が六〇個、塩坏が六〇個と書かれています。

①『平城京木簡』三－二條大路路木簡一－
「塩漬年魚」
塩漬けにされた鮎のこと。

（3）製塩土器が出土した遺跡

栃木県内では、山間部にある市貝町彦七新田遺跡や有力者の居住地と言われる上三川町多功南原遺跡など、11 遺跡で発見されており、大きな集落からまとまって出土する傾向があります。

免の内台遺跡には市場が存在したことも想定されており、塩が市に集められて、取り引きされていたと思われます。

1 小山市八幡根東遺跡　3 市貝町彦七新田遺跡
2 芳賀町免の内台遺跡　4 上三川町多功南原遺跡

《資料及び写真の提供》
① 独立行政法人　奈良文化財研究所
② 宮内庁正倉院事務所
③ 静岡県沼津市教育委員会

"さらに詳しく知りたい方は„
たばこと塩の博物館
http://www.jti.co.jp/Culture/museum/WelcomeJ.html
財団法人塩事業センター
http://www.shiojigyo.com/

⑤ 新道平遺跡（那須烏山市）

新道平遺跡は、那須烏山市の最も北西部にあたる上川井地区に位置し、江川左岸の喜連川丘陵上の平坦面に広がっています。

発掘調査は工場の造成事業に伴うもので、平成５年度にも遺跡の一部を調査し、縄文時代中期（約 4500 年前）の竪穴住居跡 20 軒、土坑 71基などを発見しました。

本年度の調査は、先の造成事業に関連するもので、昨年の８月から継続して行っています。これまでに、縄文時代中期の竪穴住居跡 40 軒、土坑 100 基以上を発見しており、前回の調査分を合わせますと 60 軒を越える住居跡群を確認したことになります。

出土遺物には大量の縄文土器をはじめ、石鏃・石錐・打製石斧・磨製石斧・磨石及び石皿などの石器類や、土製円盤及び耳飾などの土製品があります。

住居跡は、直径が約５ｍほどの隅丸方形ないしは楕円形が大半で、さらにそれらの多くには、何回かの建て替えが行われていることが判明しました。土坑の約 40 基は袋状土坑と呼ばれ、口が狭く底が広い特徴的な形状を示しています。中には、深さが約 1.7m、底径が約 2.5m ほどの大型な袋状土坑が存在します。

住居跡が発見されない南西側の斜面部では、多量の土器が出土しており、土器の捨て場に利用されています。

（那須烏山市教育委員会　生涯学習課　0287-88-6223）

竪穴住居跡の調査状況（南から）

土器捨て場の調査状況（南東から）
大量の土器が折り重なるように出土しています

⑥ 笹塚古墳（宇都宮市）

この古墳は、宇都宮市東谷町に所在する全長約 100ｍの大型前方後円墳です。昭和 32 年６月30日に墳丘部分が県の史跡に指定されていますが、周溝部分が未指定であるため、その周溝部分の範囲を確認することを目的に調査を実施しました。

調査の結果、次の４点について新たに確認することができました。

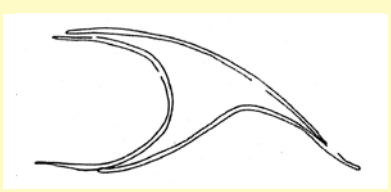
1. 墳丘測量の結果から、後円部が三段築成であること。そして、後円部の三段目に、河原石を用いた葺石が葺かれていることが分かりました。
2. 後円部の墳頂及び第二段目の平坦な面に、埴輪が並んでいることが分かりました。埴輪は三条突帯の円筒埴輪と朝顔形埴輪があり、円筒埴輪の中には、透孔の脇に右下写真のような「銀杏葉文」と呼ばれる線刻が描かれるものがあります。
3. 墳丘のまわりを、二重に周溝がめぐることが分かりました。周溝間の中堤部分からは、埴輪片が多量に出土しています。
4. 周溝内の堆積土を調査すると、その底面近くからは榛名山を墳源とする榛名二ッ岳渋川火山灰（6世紀初頭に降灰）が、中位では浅間山を噴源とする浅間Ｂ軽石層（西暦 1108 年に降灰）が確認できました。このことから、榛名二ッ岳渋川火山灰の降灰以前に、築造された古墳であると理解することができます。

以上、葺石・埴輪・三段築成の３要素を兼ね備え、二重周溝を持つ５世紀中頃の古墳であることが分かりました。なお、「銀杏葉文」線刻埴輪が出土したことから、同様な埴輪を出土する宇都宮市西川田町の塚山古墳との関係が注目されます。

（宇都宮市教育委員会　文化課　028-623-2764）

笹塚古墳全景（南から）

「銀杏葉文」の線刻文をもつ円筒埴輪



「銀杏葉」の線刻文 宇都宮市塚山古墳群射撃場内古墳

⑦ 城内町古墳群 圓通寺古墳（栃木市）

城内町古墳群は、栃木市の東南部、巴波川の東側に位置します。５基からなる古墳群において、唯一前方後円墳である圓通寺古墳は、圓通寺の境内に所在します。以前の測量調査の結果から、周溝を含めた大きさは約40ｍと思われます。造られた時期は、出土した埴輪や土器などから６世紀後半の可能性が高いようです。

栃木市内には、既に消滅した古墳を含めて前方後円墳の数が極めて少なく、またこれまで数少ない前方後円墳の一つである圓通寺古墳について、詳しいことはまったく分かりませんでした。そこで、当地域の古墳時代の様相を研究するため、國學院大學栃木短期大学を主体者として学術発掘調査を実施しました。

発掘調査により、新たな事実が明らかになりました。先ず注目できることとして、墳丘の表面に河原石を葺く、葺石をもつ古墳であったことです。葺石をもつ古墳は栃木県内では少なく、群馬県によく見られる特徴です。そしてさらに、出土した形象埴輪、器財埴輪及び円筒埴輪の中に、群馬県の太田市地域より持ち込まれたものが存在します。これらの特徴は、古墳に埋葬された人を考える上で重要でしょう。なお、本年度の調査では石室の前庭部付近を確認し、この周辺から鉄鏃やガラス玉などが集中して出土しました。これらの遺物は石室から流失した可能性が低く、何らかの祭祀行為を予想させます。次年度以降も調査を継続いたしますので、ご期待ください。　（國學院大學栃木短期大学）

調査区全景

鉄鏃が集中して出土

調査風景

⑧ 神鳥谷曲輪跡（小山市）

神鳥谷曲輪跡はＪＲ小山駅の南側に位置し、土塁と堀をめぐらした一辺 200 ｍほどの方形の館跡です。祇園城を居城にする以前の、小山氏の館と言われています。館跡内を在来線や新幹線が横切り、また市内中心部に近いこともあって住宅が迫っておりますが、現在でも東側に小高い土塁を確認することができます。

発掘調査は、館跡の中央部分に倉庫の建築が予定されたため、平成 19 年１月より実施しています。これまで道路跡、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡及び土壙などが発見されました。

中でも、幅約６ｍの道路跡は地面を掘り下げて作られ、両側には側溝が設けられた立派なものです。鎌倉時代に小山から千葉方面を結ぶ道路として、機能していたと考えられます。この道路跡の確認面からは、多量のかわらけ（土師質土器）が出土していますが、これらは道路が使われなくなった以降に捨てられたものです。、道路の周辺からは、多数の建物跡や井戸跡が発見されており、館跡が存在したと推定されます。かわらけは館で催された宴会などの行事に使用されたものが廃棄されたものと思われます。また、井戸跡は直径が４ｍを超える巨大なもので、その中には一辺１ｍほどの木製の井戸枠が残っていました。青磁など輸入陶磁器が出土しています。

まだ調査途中ですが、道路が使用されなくなってから、井戸を中心に建物を配置する館が作られたことは間違いないようです。この館は、建物跡・井戸及び土塁などの規模や、出土土器などから祇園城構築以前の小山氏の館であったと考えられます。

（小山市教育委員会　文化振興課　0285-22-9668）

神鳥谷曲輪跡航空写真（右が北）

道路跡の調査状況（北西から）

埋蔵文化財センター普及事業

遺跡見学＆発掘体験レポート

湯西川ダム建設に伴う調査として、本年度は仲内遺跡と川戸釜八幡遺跡の発掘調査を行っています。7月12日には、栗山地区の歴史愛好者の方々が両遺跡を見学しました。現地にて、発掘された竪穴住居跡や出土した縄文土器や石器、発掘調査の方法などについて調査担当者から説明を受けました。専門家も驚くような多くの質問が飛び交い、地元の歴史を知り、そして学ぶことのできる有意義な時間となりました。

また、7月19日には、日光市立湯西川中学校の1年生2名が発掘体験学習を行いました。4m四方の正方形で区切られたグリッドの中を、移植ゴテで丁寧に掘り下げましたが、出てくるものすべてが気になるようです。何かが出てくるたびに「これ土器？」「これ石器？」と質問の連続でした。最初はぎこちなかった移植ゴテの使い方も、慣れてくるうちに上手くなり、とても楽しんで作業を体験することができました。

川戸釜八幡遺跡見学の様子

湯西川中学校の生徒による仲内遺跡発掘体験

埋蔵文化財センター職場体験

埋蔵文化財センターでは、中学校や高等学校の職場体験学習を受け入れています。この体験学習では、埋蔵文化財センターが行う通常業務の中で、特に報告書作成のための基本的な作業となる土器や石器の整理作業を行います。

5月～6月にかけて、下野市立南河内中学校・国分寺中学校・石橋中学校、栃木市立東陽中学校の4校から、計18名の生徒が体験学習を行いました。11月には小山市立第三中学校の生徒が職場体験を行う予定です。

写真は、栃木市立東陽中学校2年生の体験学習の様子です。埋蔵文化財センターで行っている遺物の整理作業と同じ順序で、水洗（土器や石器に付着している土を丁寧に洗い落とす作業）→注記（土器に遺跡の名前を書き込む作業）→土器の接合（たくさんある土器のかけらの中から、元の形を復元する作業）→実測（復元した土器の形や特徴を正確に書き写す作業）→収蔵（整理が終了した土器や石器を収蔵庫に納める作業）まで行って、3日間の体験学習を終了しました。どの作業も、細かくて根気のいる作業ですが、皆さん最後までしっかりとやり遂げました。今後も職場体験に埋蔵文化財センターをどうぞご利用ください。

土器の水洗い作業

土器の接合・復元作業

収納作業

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ http://www.maibun.or.jp をご覧のうえ普及事業担当まで　TEL 0285-44-8441